



Vol. 76

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば 開催報告 ～みんなで活動！印旛沼・流域再生～

(併催：第11回川での福祉・医療と教育の全国大会)

川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば実行委員会
委員長 桑波田 和子

日時：10月8日(金) 13時～17時 9日(土) 9時15分～17時
会場：ホテルプラザ菜の花(千葉県庁向い)

参加者：約320名(のべ440名)

日時：10月10日(日) 10時～14時(※雨で中止)
会場：西印旛沼(佐倉ふるさと広場)

環境パートナーシップちばは、印旛沼をきれいに
する活動を展開し、印旛沼わいわい会議にも参画し
今回の大会にも関わりましたので、ここにご報告い
たします。

10月8日から9日の2日間、川と沼での活動を
先進的に取り組んでいる全国の団体などや、県内の
活動団体など延べ人数440名が参加しての大会と
なり、10日は雨天のため残念ながら中止となりま
したが、にぎやかに熱く大会を終了することができ
ました。ご参加ご協力いただきました皆さまには厚
くお礼を申し上げます。

この大会の目的は、2010年1月に策定された、
「印旛沼水循環健全化計画」を住民に広く知って
いただくこと。水のいやし(福祉・医療)や流域の活
性化を推進する街づくり等の新たな視点を全国の
取り組みから学び、人々が川や沼に関心や興味を持
つようになることで、印旛沼や河川の水質浄化、環
境保全・再生等の住民活動へつなげていくことで
した。また、2004年から昨年まで、流域の市町村
で開催した「印旛沼わいわい会議」と、併催として
「第11回川での福祉・医療と教育の全国大会」
も合わせて行いました。開催初日の8日は、実
行委員長、石渡千葉県副知事や虫明氏(印旛沼
流域水循環健全化会委員長)の挨拶で開会しま
した。



2日間の大会でしたが、北海道、四国、東北、
九州と川や沼に係わる市民団体、行政、企業等
との意見交換や交流ができました。反省として
は千葉県内の市民団体の多くの方に参加して
いただけたら良かったと思いました。

この大会を終え、ここでの学びをどのように
活かしていくかは、私たち一人一人に課せられ
た課題ですが、楽しく元気に夢を持って活動し
ていきたいと思いました。

尚、この大会の報告は、10月27日に開催さ
れた、「印旛沼流域水循環健全化会議」で報告
させていただきました。

(※2日間の報告は、次ページに記します。)

8日プログラム

- 開会セレモニー
- 印旛沼の紹介
人とともに生きる印旛沼／白鳥孝治氏（印旛沼専門家）
- 基調講演
河川空間からデザインするまちづくり／荒関岩雄氏
（北海道恵庭市企画専門委員）
川を生かしたまちづくり／中村英雄氏（徳島県）
（新町川を守る会理事長）
- 水辺の市町長サミット
印旛沼に面した市町長によるパネルディスカッション
（成田市、佐倉市、印西市、酒々井町、栄町）

9日プログラム

- ◆ 第1分科会 水辺での福祉・医療
- ◆ 第2分科会 水辺での教育
- ◆ 第3分科会 水辺からまちづくり
- ◆ 第4分科会 水辺の回廊・舟運
- ◆ 全体会
コーディネーター：
虫明 功臣氏【印旛沼流域水循環健全化会議委員長】
コメンテーター：
吉川 勝秀氏 氏（日本大学教授）
大野 二三男氏氏（千葉県河川環境課長）

水辺の市町長サミット・・・コメント

佐倉市長：印旛沼の近くで育ち生活している。印旛沼問題を避けることはできないと思う。印旛沼の洪水との闘いは、近代技術を導入した印旛沼開発事業によってようやく昭和44年に竣工を迎え洪水の被害から頭を悩ませることがなくなった。

酒々井町長：印旛沼の水とともに生きてきた。干拓前の印旛沼には多くの渡しがあって、沼を中心に力を合わせて歩んできた。印旛沼の地質、治水などあらゆる面で地域のためには、やはり地域連携が絶対必要であると考えている。

栄町長：栄町の長門川には水道の取水口があり印旛沼が汚れることによって、きれいな水にして町民に配水することは多くの経費がかかる。上流の印旛沼ほか自然を守っていかねばならない。その点からも近隣の市町村が手を携え印旛沼の浄化にいろいろな角度から取り組まなければならないと思う。

印西市長：今年3月に隣の印旛村、本埜村と合併して新制印西市となった。印旛沼に密接な印西市だが以前の認識は余りなかったが、合併によって印旛沼を再認識しているところである各市町村の話聞き、印旛沼に対する今後の考え方を学んでいきたいと思う。

成田副市長：成田空港もあり印旛沼を観光スポットして、もう一つは印旛沼の水質浄化の面から高度処理浄化槽以外取り付けられないよう取り組んでいるとことである。

★主な意見

- ・水辺、拠点のネットワークが必要
- ・流域地域再生協議会等、実行力を持つ仕組みが必要

全大会での主な意見

- ★ 舟運・水辺での関わり→川・沼をきれいにしよう川・沼で遊ぶことによってつながっていく
- ★ 市民が先頭に立つことが重要
- ★ 川・水辺の利用が始まれば、整備は後からついてくる。「行政参加」
- ★ 印旛沼にはサイクリングロード、堤防道路など活用できる資源がたくさんある。活用しない手はない。
- ★ 継続して取り組むことが大事である。一人でも、できる人が、できることをやっていく。

第16回環境シンポジウム2010千葉会議 開催報告

明るく豊かな持続可能な社会の実現に向けて ～低炭素社会と生物多様性を考える～

日時：11月20日（土） 13時30分～17時

会場：千葉市生涯学習センター 大研修室

参加者：105名

基調講演：「森から見た地球温暖化と生物多様性」 清水善和氏（駒澤大学総合教育研究部教授）

事例発表

1. 「スマートエネルギーネットワークの推進」 進士誉夫氏（東京ガス㈱スマートI社 技術センター所長）
2. 「里山・里海と生物多様性…南房総の現場から」 手塚幸夫氏（夷隅郡市自然を守る会事務局長）

事業報告

実行委員会の事前学習会の報告 三須友則氏（副実行委員長）

パネルディスカッション

「低炭素社会と生物多様性」

コーディネーター：船木成記氏（㈱博報堂企画開発部）

パネリスト：清水氏 進士氏 手塚氏 前澤 由希子氏（イタリア料理教室開催）

今年の環境シンポジウムは、低炭素社会と生物多様性の大きな2大テーマを同時に考える場として、開催されました。「この2大テーマを同時に考えるシンポジウムは、まれです」とのコーディネーター船木氏の言葉で表現されたように、講師もこの大きなテーマを念頭に、各自の取り組みの報告がありました。

基調講演の清水氏からは、生物の主成分は、炭素の有機物からできていて、持続可能な森林の利用が地球（人類）を救っていると考えてみると、炭素は大変“有り難い”物質である。「低炭素社会」は、文字通り受け取ると「炭素の少ない社会」となり、理解しがたい。「低CO₂排出社会」、「省エネルギー社会」と言うべきではないかと思うと述べられました。また、森林を大切に、活用することが、地球温暖化防止、生物多様性保全の両方に役立つ。ただし、管理の仕方に注意する必要があるとのことでした。

事例報告の、進士氏からは、エネルギーの需要と供給のバランスをコントロールしにくい再生可能エネルギー（太陽光発電、太陽熱、風力、バイオマス等）を発電機や蓄電池を制御することで安定させ、再生可能エネルギーの導入を図ることができる。これによって、エネルギーを有効利用できるため、低炭素社会に貢献できるし、多様なエネルギーを組み合わせるため、エネルギーロバスト性（柔軟性・強靱性）が高まり、地域のエネルギーセキュリティを保つことができるという“スマートエネルギーネットワーク”についてでした。

手塚氏からは、30年間放置されてきた谷津の2



か所の再生を進めてきている。活動の中で人を癒す事ができることから医者はいない「ちば谷津田再生会記念病院」としても活動している。活動に参加している人たちの笑顔がすてきな報告でした。

三須氏からは実行委員が、現地見学等で学んだことの報告でした。

パネルディスカッションは、子育て中の前澤氏の、イタリアのスローフードの暮らしの話は興味深いものでした。また、生物多様性、低炭素社会について内容が分かりにくいとも述べられました。各パネリストからは、生物の多様性とエネルギーの多様性等、それぞれの多様性を認めつつ、バランスをとることが必要ではないかとの意見になりました。

船木氏は「地球への負担を少なくして地球の生態系の範囲内で豊かな生活を実現することを目指すべき」「環境問題」は「関係問題」で、自分と他者との関わりが重要であり、この関わりを通して環境を含む社会が変わっていく」との言葉は印象に残りました。

（文責：広報部）

廃棄物の適正処理推進シンポジウム 開催報告

知ろう、考えよう！私たちの生活と産業廃棄物！ ～廃棄物の適正処理の推進に向けて～

日時：10月30日（土） 13時30分～16時15分
会場：きぼーる
参加者：100名
主催：千葉県環境生活部資源循環推進課

プログラム

- (1) 基調講演演題：「低炭素社会における廃棄物処理の展望」
講師：柏木 孝夫 氏
(東京工業大学統合研究院 教授・先進エネルギーセンター国際研究センター長)
- (2) 事例紹介及びパネルディスカッション
コーディネーター：柏木 孝夫氏
パネラー：DOWA エコシステム株式会社 代表取締役社長 古賀 義人 氏
オリックス資源循環株式会社 執行役員 埼玉県寄居工場長 菅原 英世 氏
生活協同組合千葉コープ 理事 相原 時子 氏

開催の背景と趣旨について、資源循環課から、次のような説明があった。千葉県廃棄物処理計画は平成20年に策定された。この計画は、廃棄物処理と低炭素社会づくり、即ちCO₂削減や最適なエネルギー利用システム等、とのかかわりについて言及はしていない。しかし、環境省が平成20年4月に公表した「低炭素社会づくりに向けて～ライフスタイル・社会資本・環境エネルギー技術のイノベーション～」に見られるように、廃棄物処理計画においても低炭素社会づくりとのかかわりを考慮しなければならない時代が間近に来ていると考えられ、シンポジウムを開催した。

基調講演では、先進エネルギーシステム研究の第一人者で、現在に至るまで国の政策づくりに長くかかわり続けている柏木孝夫教授*1が、今まさに起ころうとしている低炭素社会づくりに向けた「スマート革命」の全体像や、そこで勝ち抜くための戦略について解説された。

*1「スマート革命—自動車・家電・情報通信・住宅・流通にまで波及する500兆円市場」の著書あり。

続いて、パネルディスカッションに移り、まず各パネラーの専門分野の事例紹介があった。

・「DOWA エコシステム株式会社」は、明治17（1884）年創業の鉱山製錬会社を前身に持ち、鉱山製錬で培った技術・インフラ・ノウハウを基に早くから資源リサイクル事業、廃棄物事業などの環境ビジネスに進出し、最近では、国家的問題になっているレアメタルの資源戦争や都市鉱山の開発の分野に強みを発揮している様子が同われ



た。

・「オリックス資源循環株式会社」は、埼玉県のPFI（Private Finance Initiative）事業として県の安全管理のもと、独立採算事業として、大規模リサイクル施設（国内最大規模、処理能力450トン/日、ガス化改質方式）を建設運営している。ここでは、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルのすべてを網羅することを目指しており、低炭素社会づくりに関する要素技術やハード施設の具体例の一つとなるものである。

「生活協同組合千葉コープ」は、産業廃棄物処理の現状について3Rの視点から説明した。

このような事例紹介の後の議論では、既存の廃棄物処理体系の延長線上にある諸課題が主な焦点になった。その解決策としては関係するセクターがより密に連携をとることが肝要であると感じた。

（文責：広報部）

第45回 環境パートナーシップ エコサロンの報告

テーマ： 無理だと思ってもやればできる

日時：平成22年10月16日（土） 午後7：00～8：45

会場：千葉市民活動センター1F 大会議室

話題提供者：タン マイケル 氏 渋谷教育学園幕張高等学校教諭

今回は、高校教師が生徒へ「無理だと思ってもやればできる」という熱いメッセージを伝えるために、北海道から鹿児島までの約3,000kmを竹馬で縦断するという突拍子もないチャレンジをしました。そのタンご夫婦をお招きし、行動するきっかけ、縦断しながらの体験、縦断した後の生徒とのかかわり等について、お聞きしました。

タン・マイケル氏は、オーストラリア人で日本在住5年、職業は、渋谷幕張高校の教師で、奥様は日本人です。

まず、竹馬で日本縦断をするきっかけは、オランウータンの保護を求める現地住民の声を聞き、生徒に訴えましたが、生徒からは、「問題が大きすぎて自分には何もできない」とあきらめの姿勢にショックを受けました。ご夫妻は、「不可能にみえても、やればできる」と伝えたいために色々考えたあげく、竹馬で日本を縦断しながら、ボルネオ島の熱帯雨林とそこに住むオランウータンを守るための募金活動をすることに決めました。そこで、タン氏は学校を6か月休職し、奥様は会社を辞めましたが、賛同する人はなく、生徒たちだけが応援したそうです。

さて、竹馬の練習を始めたものの、なかなかうまく歩けない状態の中、2009年7月1日、宗谷岬は悪天候で、緻密に計画した地図を突風に飛ばされるというアクシデントもあり不安な中での出発となりました。また、竹馬で歩く距離もなかなか進まない中、くじけそうになる気持ちを支えたのは、生徒たちへの熱い思いと地域で出会った人たちの温かいサポートだったそうです。宗



(タンご夫妻)

谷岬から鹿児島県佐多岬まで、6か月間の旅の間、ご夫妻の竹馬は、それぞれ1本取り換えただけでした。

全行程、15kgのリュックを担いで、野宿しながら竹馬で歩いたことは、各地での人との出会いに支えられ、また夫婦でお互いの気持ちをいたわること、やればできるということをご夫妻が実感したことでした。集まった募金約140万はNOP法人BOS日本の「オランウータンの森保護再生プロジェクト」に使用され、ボルネオ島の森、140坪を確保することができるそうです。

日本縦断を終えて、学校では生徒たちが募金活動を行ったり、2人のドキュメンタリー作りに参加する等変化が出始めているということでした。タンご夫妻は、明るくさわやかで健康的なご夫妻で、エコサロンに参加した私たちも元気を頂きました。(文責：広報部)

ご案内 12月の環境パートナーシップエコサロン

テーマ 異常気象の「ここが知りたい」

なぜ 地球が温暖化すると異常気象が増えるのか

日時：12月10日（金） 午後6：00～8：00 場所：千葉市民活動センター大会議室

話題提供者：小柴 厚 氏 (環境カウンセラー 現在、東京管区气象台勤務)

内容：銚子地方气象台にも勤務され、長年日本の気象を見続けてこられた小柴厚氏に、「なぜ、地球が温暖化すると異常気象が増えるのか」について、専門家の立場からお話をお聞きします。質問大歓迎！お気軽にご参加ください。

参加費：500円（資料代）

申し込み：090-5415-9074 (桑波田) Email：kuwahatak@hotmail.com

企業とNPOによるパートナーシップ事業による 「温暖化防止に向けたエネルギー利用に関するまなび会」の報告

東京ガス（株）千葉支店 小原 直子

11月10日（水）に、当社の「キッチンランド千葉」で、標記のまなび会を行いました。

この会は、東京ガス千葉支店が提案したテーマである、「温暖化防止に向けたエネルギー利用に関する勉強会の実施」と環境パートナーシップちば様が企画した「エコ・クッキング体験と低炭素社会に向けたエネルギーの利用等について専門家の講義を聞くことを通して、効果的な温暖化対策を日々の生活に活かす」という要望が一致し、実施に至りました。当日は、千葉県庁・NPO・地球温暖化防止推進員の方など多方面でご活躍される18名の方にご参加いただきました。

午前中は、「エコ・クッキング」を体験していただきました。「エコ・クッキング」は、エネルギーや環境を考える気づきの場として「食」を通して「身近な題材で体験的に楽しく考える」というコンセプトのもと、買い物から料理、片付けに至るまでの一連の流れを通して環境に配慮した食生活を習得するものです。キッチンランド千葉には、各班の水やガスの使用量を計測できる「エコメーター」が設置されており、班毎に使用量を競うことで、省エネ行動を促すきっかけにもなっています。当日は、同時調理や火加減の調整が省エネにつながることや、生ゴミの減量や捨て方にも省エネのポイントがあることに、ご納得いただいたようでした。

午後は、スマートエネルギーネットワークセンター所長進士誉夫より、コージェネレーションやスマートエネルギーネットワークについてお話させていただきました。当社では、低炭素社会の実現に向けて「スマートエネルギーネットワーク」という新しいシステムを提案しています。私たちの暮らしを支えるエネルギーにはまだ無駄になっ



（和気あいあいとエコ・クッキング）

ている電気や熱が多くあります。そこで例えば複数の建物で電気や熱をネットワークでつないで融通することにより、なるべくエネルギーの使用量を一定にし、エネルギーを作る量と使う量のバランスをICT（情報通信技術）を使い制御することで、エネルギーをスマートに（賢く）使うということです。天候などで不安定になりがちな再生可能エネルギーも発電機や蓄電器と組み合わせ、ICTにより制御することで導入拡大を図ることができます。少し難しい内容ではありましたが、意見交換でも、エネルギー利用について皆様の関心の高さを感じることができましたこと、エネルギー供給事業者として低炭素社会に向けた取り組みを広くご理解いただく大変よい機会となりましたことに、環境パートナーシップちばの皆様や千葉県環境生活部県民活動文化課の花澤様にこの場を借りて感謝申し上げます。

注

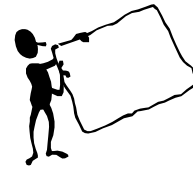
当まなび会は、千葉県環境生活部県民活動・文化課が今年度から主催した新しい事業である「企業とNPOによるパートナーシップ事業」の一環として行ったもので、企業が募集したテーマにNPOが応募するという形で実現したもので、この報告を東京ガス千葉支店様にお問い合わせしました。

（環境パートナーシップちば 広報部）



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 2 —

おききました！ この人・この団体



団体名	アースドクターふなばし
活動地域	船橋市
活動分野	地球温暖化
活動目的	地球温暖化防止活動について推進と普及をはかる
主な活動内容	出前講座、講師派遣、展示、研修、提案提言等

アースドクターふなばしは、2007年7月、船橋市在住の千葉県地球温暖化防止活動推進員を中心に設立されました。

私もその一員で、当初「アースドクター」という言葉に、自分たちの思いを込めながらも身の丈より大きな名前に、気恥ずかしさを感じていましたが、今は、講座終了時に「みなさまぜひアースドクターになって下さい」といっています。

そんな「アースドクターふなばし」を率いて、船橋中を駆け回っているのが舛田守良さんです。

会員は、30名を少し切ります。現役の参加は当然難しいのですが、半数くらいのメンバーが学び合いながら目的を達成するために頑張っています。

講座も、ワークショップと座学を組み合わせたり、自分たちで制作した体験用具や実験器具を取り入れながら、退屈しない楽しく分かりやすい講座を目指しています。

今年はこれまでに、22講座、イベント出展7回を行ってきました。

船橋市地球温暖化対策地域協議会の会員でもある当会は、その対策の1つ「緑のカーテン」の普及のために、初夏まで緑のカーテン講座に力を入れてきました。

こどもの講座では、子ども環境白書などを教材にした「地球温暖化のはなし」、体験学習では

「持てるかなエネルギーのかばん」「未来は変えられる」「ソーラークッキング」「電気を作ろう」「電球型蛍光灯REDと白熱球の比較」「ペットボトルで風力発電機を作ろう」が主なメニューです。

成人向け講座では、「地球温暖化の原因とメカニズム」「ふなばしエコノート（環境家計簿）」「食を通して地球温暖化を考える」「レジ袋に替わる不用傘から作るマイバッグ作り」等々講座主催者の要望に沿って、講座を組み立てています。



こどもでは、太陽・風・水・人力のエネルギーを実感や体験をしながらの講座は、夏休みの自由課題にもなると喜ばれました。

このような講座開催は、会員の努力のたまものです。どのようにして会の目的である地球温暖化防止活動の推進と普及をはかればよいかを話し、まず、自分の地元の公民館に会の目的と活動状況、そしてこんな講座メニューを用意しているという文書を持って、手分けして訪問しました。慣れない売り込みは大変でしたが、徐々に成人講座が増えてきましたし、こどもの講座は申し込まれることもあるようになりました。講座を入れていただいた学校も2~3ありますが、学校の授業に取りあげていただくことを開拓してゆきたいと考えています。

会員の大きな努力で活動しているが、課題として、活動できる会員を増やすこと、財政基盤をしっかりとりたいことが念願とのことです。

ちょっぴりお楽しみもあります。会で借用した水田での「有機稲作」体験とその周りで育てた野菜での「エコクッキング」です。（文責：大西）

運営委員会報告

9月運営委員会

日時 平成22年10月1日(金)
場所 船橋市民活動センター

報告及び協議事項

- ① だより75号・76号について
- ② ELCoの会
- ③ 企業とNPOによるパートナーシップ事業
- ④ 10月エコサロンについて
- ⑤ 川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば出展内容について
- ⑥ エコウォーキングマップ (bay f m基金) 他

10月運営委員会

日時：10月25日(月)
場所：船橋市民活動センター

報告及び協議事項

- ① 12月エコサロン
- ② 企業とNPOによるパートナーシップ事業
- ③ IT講習会
- ④ 環境シンポジウム2010千葉会議
- ⑤ 千葉市市民活動センター活動団体紹介 他

11月運営委員会

日時：11月24日(水)
場所：船橋市民活動センター

報告及び協議事項

- ①環境シンポジウム2010千葉会議
- ②12月エコサロン
- ③ELCOの会 他

お知らせコーナー

廃棄物適正処理を推進するためのシンポジウム 知ろう、考えよう！私たちの生活と産業廃棄物！

日時 平成23年2月5日(土) 13時~16時30分
場所 船橋市民文化創造館(フェイスビル6階)
定員 200名 費用 無料

(1) 基調講演

演題：「ごみと歩んで30年(ごみバカ日誌)」
講師：由田 秀人氏(日本環境安全事業(取締役))

(2) 事例紹介及びパネルディスカッション

テーマ：「産業廃棄物処理の課題解決に向けて」
コーディネーター：石黒 智彦氏

(財)日本環境衛生センター

【申し込み・お問い合わせ先】

千葉県環境生活部資源循環推

進課資源循環企画室

電話：043-223-2758 FAX：043-221-3970

Eメール：e-sigen@mz.pref.chiba.lg.jp

知の巨人 ドクター月尾が
わかりやすい語り口で地球環境問題を解き
ほぐす

月尾嘉男氏講演会

テーマ

『環境問題に挑戦する日本の技術と文化』
日時 平成23年1月15日(土) 14時~

場所 市原市民会館大ホール
人数 先着1500名(車いす席4席あり)

入場料 無料

参加方法 当日直接会場へ

主催：市原市

問合せ先：市原市環境管理課

電話：0436-23-9867

◆ 広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：http://kanpachiba.com E-mail: info@kanpachiba.com

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団
環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		